



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュ・スレタ - No.113

2006年12月

教会探し

コルネリオ会 会員 圓林栄喜

「神様、これからまた新しい地での生活が始まります。どうか良い教会に導かれますように。」

異動の度に妻と一緒に祈ります。キリスト教会といっても教派が違えば主義主張にも違いがあります。自分の信仰が本当に養われ、成長する教会にいつも身を置けるよう祈っています。

また、「これから行く教会は果たして私たちが快く受け入れてくれるだろうか？」それが一番の関心事項でもあります。自衛官という立場上、いつの間にかそのようなことに関心を払う習慣が身につくようになりました。(良いことかどうかはわかりませんが)

幸い、これまで集った教会はいずれも祈り、聖書の御言葉を大切にしている教会ばかりでしたので霊的に支えられたと思っていますし、快く私たちを受入れて下さり、実際に、私たち家族の信仰を支えてくれるにふさわしい教会でした。

一方で、今回の8月の異動で東京に異動した際にまず思ったことは、「どの教会にしようか？」でした。歩いて30分もかからない地域に5つも、6つも教会があります。

そのような中で、今回は4つの教会を週ごとにまわることになりました。主任牧師が不在で、毎回他のいくつかの教会からローテーションで牧師を招聘している教会、プロジェクターを駆使してビジュアルな礼拝を行う教会、オーソドックスな昔ながらの厳粛な礼拝を守る教会等イエス・キリストを信じる人々の集う教会でありながらこんなにも教会の雰囲気、礼拝形式が違うものかと改めて驚かされます。それでも、どの教会で礼拝を守っても問題はないと思いました。

教会は罪赦された人々が集い、共に我々を創造され、我々を救いに導き、日々我々を助け導かれる神を礼拝するところだと思います。ヨハネの黙示録にも教会が出てきますが、それぞれ長短をもち、神様からひとつの指摘も受けなかったのはスミルナの教会だけでした。

これまで集った教会もそれぞれ何らかの課題や問題に直面しており、順風満帆で問題のないといった教会はありません。しかし、それぞれの教会は問題を認識して、それぞれの問題のために祈っていました。

「教会探し」と表題をつけましたが、我々が教会を決めるといような考えではなく、自らの信仰を支え成長させてくれる教会に導いていただくという気持ちと祈りをもって求めれば、その時、その時必ずふさわしい教会に導かれるというのが私の確信です。

米軍施設の中には教会があり、日曜日毎に礼拝が捧げられています。同じ使命を有する人々が共に集います。そんな教会が日本にもあればいいなと思うこともありますが、人間は様々な価値感、考えの違いがあって当たり前であり、その違いを認めた上でなおキリストにあってひとつになる教会こそ必要なのではないかと思っています。

ある先生が、うちは「壁を壊す教会だ」と言われました。はじめて聞いた言葉でしたが、心に響きました。

知らず知らずのうちに様々な「壁」で教会が仕切られ、真に救いを必要とする人々の心の「壁」も崩せないまま、歩んでいるとしたら残念なことです。まずは、自分自身がそのような壁を作らないよう(当然、罪を犯さない範囲ですが・・・)導いていただきたいと思わされます。

聖書に学ぶリーダーシップ（続その5）

アカペーの‘愛’はどう感じるかではなく、相手にどう振舞うかです

コルネリオ会 会員 伊藤忠臣

熱闘夏の甲子園、高校野球は、斉藤・田中両投手の投げ合いが感動を呼びました。本稿では斉藤君の表情のさわやかさに注目します。打者との駆け引き・バツクの守備の巧拙・走者の動き等は‘一球入魂’で投げ込むエース斉藤君へ凄いプレッシャーになります。早実入学当初に彼は、先輩にマウンド上の激しい喜怒哀楽を指摘され、『表情に出して何かプラスがあったのか？』と問われ大いに反省し、性格を変える大変な努力をし、皆様が目にした心の動きを表情や態度に出さず投げ抜く、堂々たるエースピッチャーの人格に変身を遂げたのです。リーダーは「やって見せ、言って聞かせて、やらせてみて、褒めてやらねば、人は動かじ」の行動訓どおり、到達目標に対し各人の技量のレベルに応じて指導事項を的確に指示すればよく、怒号やなじり厭味な態度は不要なのです。斉藤投手は夏の甲子園、国体と連続優勝でそれを証しました。‘サーヴァント・リーダーシップ’が追及する「リーダーシップは人の中身つまり人格そのもの」である事を具現したものであるという事が出来ます。

以下は‘その5’アカペーの‘愛’から抽出した各徳目の強調すべき事項について

James C. Hunter 著。「The Servant」の4章「The Verb」から抜粋引用して紹介します。

人々に影響を与える（愛する）行為の定義とそのコツ

(1) 忍耐；(逆境の局面において) 自制を示す事

性格が多様雑多な部下達を統率して、厳しい多様な状況を克服して任務を達成しなければならぬ自衛官リーダーには必須の人格であり、部下が自分の行動に責任を持つように育てる役割を持っています。そのため部下の尊厳に配慮しながら欠点を指摘して、責任を身に付けさせるのです。行動訓の原理で状況に応じ冷静に実行するのです。

(2) 思いやり；関心を向け、感謝し、励ます事

アカペーの‘愛’を示す為の基本的な努めの一つは「関心を払う」ことです。人に関心を向けるには

能動的に人の話を聴く事。つまり雑念を払い話し手が、物事を見るように感じるように、見よう感じようと試みる事（共感）です。

人格の中心には感謝されることの必要がありそうですし、賞賛を受ける事は人間として当然必要な事であり、人との健全な関係に不可欠な要素です。（声かけ）

(3) 謙虚；思い上がりせず、尊大でなく、等身大の自分である事

リーダーに望まれる事は信頼性、つまり人として嘘偽りのない自分でいられる能力です。謙虚は自分自身や自分の限界を真に知る事で認識し、謙虚な態度は人に対してありのままの自分の姿でいることで偽りの仮面を捨て、自分を過小評価するのではなく、自分自身より他のこと、他人のことを考える事から来るのでしょうか。

(4) 敬意；部下を大切な者として扱う事

神は人間をまるで駄目なものにお造りになったのではなく、行動に少しだけ問題を持たせたので、個人は何かしら多少は行動に問題を抱えているものです。でも人は唯人間であるだけで尊敬すべきではないでしょうか。

(5) 無私；自己本位ではなく他人の必要に応える事
たとえ自分の必要な事や欲求を犠牲にしても、他人の欲求ではなく必要に応える事

John 2；1 - 10 カナでの婚礼

(6) 寛容；不当に扱われた時、その憤りを捨てる事
不当な事、悪い事等が起こっていても、見ない振りをするのではなく、反対にリーダーは毅然とした行動を示さねばなりません。毅然たる行動は、人に対してオープンで誠実にかつ、敬意を持ったやり方で行うべきです。この際抜き去り難い憤りを捨てる事が肝要で、でないとも疲労困憊し能力が半減します。

(7) 誠実；欺瞞がない事

誠実によって築かれる信頼、信用は人間関係を作り上げる接着剤です。

誠実とは人に期待することを明らかにし、責任を維持させ、良い事も悪い事も進んで、知らせ、人に反省させ、いつも一貫した分かりやすい態度を保ち、そして公平でいる事。リーダーの行動は、どんな犠牲を払っても欺瞞をなくし、真実のために全力を尽くす事です。

J o n e 5 ; 1 - 9 ベトサイトの池で病人を癒す。

(8) 献身 ; 自分がした選択を堅持する事

8要素の内最重要な‘人に影響を与える愛の行為’です。米軍野外令は『国家の為、陸軍の為、組織の為、関係者の為に正しい事を行う事を意味している。そしてこれらの責任を己の利益に優先させる事である。』と明記しています。

真の献身は継続的な向上によって、個人と集団が成長する事を目指します。献身的なリーダーは、人の成長と能力の十分な発揮、継続的な向上に貢献し、出来る限りよいリーダーになれるように助力して、人

を導くに値するリーダーであるべく身を捧げているのです。

人生において‘しなければならぬ事’は二つしかありません。一つは‘死’、もう一つは‘選択’です。権威やリーダーシップにいたる道のりは‘意志’からスタートします。意志は意図をもって行動するという‘選択’です。私達は最終的にどんな行動をとるか選択してその選択に責任を取らねばなりません。リーダーが‘愛’する事、人の為に全力を尽くす事を‘選択’した時からリーダーには8ヶ徳目の発露が必要とされます。特に苦手の人への為に全力を尽くす時や厳しい試練を迎えた時、又特に嫌だと思ふ人を‘愛’する時に、貴方の‘真の人格’が現れます。人生において、今日、貴方に、次の瞬間、如何なる行動をとるか、‘選択’を強要してきます。一瞬一瞬を、どうぞ精進してください。

戦争について考える (その 7)

コルネリオ会会員 足立順二郎

は望むべくもない。何とも救いようがない。

(4)命がけ

とにかく、軍人は命令があったら、命を的に働かなければならない。鉄の団結を持って打って一丸となって敵に当たらなければならない。

だから、いろいろな徳目が必要になってくる。かつての軍人勅諭に示された忠節礼儀武勇信義質素などどの国の軍人に対しても要求される徳目である。

命を的にということは、死ぬ(戦死する)確率が高いことである。我が国のある総理大臣がいったことがある。

「一個の人命は全地球の重さよりも思い」と。そういう命を捨てるのである。誰でも死にたいわけではない。おまけに本人が死ぬだけではなく、本人には愛し愛される家族がいるのである。

だから、「進め進め兵隊進め」という人は本当にその痛みを知った上で、軍事について十分以上に知った上で、決心判断しなければならないのである。

不幸にして戦死した人々には十分に慰霊しなければならないのである。家族に対しては十分に償わなければ

5 . 軍人

(3)シビリアン・コントロール

現在の自衛隊を運用しているもっとも中枢にいるのは総理大臣である。直接の運用責任者は防衛庁長官である。彼の直接のスタッフは各幕僚長をのぞき所謂シビリアンである。幕僚長以外には直接部隊指揮の経験はない。彼らは「進め進め兵隊進め」とはいうが、決して弾の降る下には行かない仕組みになっている。これらの防衛庁長官以下の自衛隊運用責任者に対して注文をつける(下品な表現になるが、これまでの国会における議論を見ているとイチャモンをつける)国会議員も、身分は決して自衛官ではないし弾の降る下には行かない仕組みになっている。皮肉な物言いになるかもしれないが、これが民主主義国家における軍隊の軍人のおわされている運命である。これがシビリアン・コントロールとかシビリアン・スーパーマシーとかいわれる制度のもとにおける軍人である。総理大臣、国防大臣、外務大臣などに軍人経験者あるいは戦争体験者がいればいくらか救いにも慰めにもなるが、我が国の現状で

ばならないのである。

(5)職業軍人

大東亜戦争終了後、私は職業軍人であったというわけで公職追放を受けた。所謂パージされたわけである。当時職業軍人という言葉には何か「金をもらって戦争する人」というそれこそ崇文蔑武的な響きがあった。しかし、そうではない。

職業はこの場合 professional で「専門の」とか「本職の」「ホンチャンの」と訳すべき単語である。昔ヨーロッパで大学が出来た頃、大学は神学、医学、法学を講じるのが目的であった。つまり、牧師、医師、法律家を養成する学校であった。彼らは皆 cure という単語でくくることの出来る専門家である。つまり、牧師は魂の病気を癒す、医師は肉体の病気を癒す、法律家は社会の病気を癒すのである。

ところが、世の中だんだん複雑になってくると、この三つの professionals(専門家)だけではうまく動かなくなってきた。四つ目の professionals つまり軍人が必要になってきたのだ。四つ目の professionals を養成する学校が陸軍の士官学校とか海軍の兵学校のような学校だ。この種の学校は世界中の国にある。我が国では防衛大学校と各自衛隊の幹部候補生学校がこれに当たる。この出身者を professional soldier というのだ。これを職業軍人と訳した。

この職業軍人が軍隊の幹部になる。これなくしては現代の軍隊は成り立ち得ない。したがって彼らにはもっとも厳しい職業倫理が求められる。この中で、ことに民主主義国家の軍隊の幹部に求められるもっとも重要な特性は「臨機応変」とであると考えている。民主主義国家というものは全体的に見れば「手続き社会」である。したがって軍隊の運用についてもまことに細かな規則がある。

ところが、戦争というものはまことに千変万化であってあらかじめ定めた規則に則って変化してくれるものではない。次の瞬間何が起きるか分からない。とても規則であらかじめ決めて置ききれものではない。アメリカ海軍には次のような戒めがあると聞いた。「諸君、ネービー・マニュアルを読みたまえ。読んでそこに書いてあるように行動したまえ。しかし、ネービー・マニュアルを読むいとまのない時には、常識に

従って行動したまえ。それはよくネービー・マニュアルに一致するであろう。」なかなか含蓄に富む。また、アメリカ海兵隊のモットーもまた「臨機応変」とであると聞いた。(次回に続く)

献金感謝(2006.4.6~2006.10.15)

今回も多くの愛する兄弟姉妹から尊い献金をいただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。(敬称略)

石川信隆、伊藤忠臣、今市宗雄、圓林栄喜・さゆり、加瀬典文、韓国MEAK、広田具之、松井光江、山下和雄、矢田部稔、吉田好里・美枝子、新屋徳治、斉藤孝、宮崎健男、谷岡博志、長橋和彦・晴子、石井克直、玉井佐源太、内山義彦・和子、江副喜介、長濱貴志、大久保真道、松村和紀

祈りの課題

- 1 防大聖研のためにお祈りください。
- 2 コルネリオ会会員の信仰が守られ、それぞれの職場で主の御名が崇められる働きができるようにお祈りください。
- 3 自衛隊宣教大会が祝福され感謝です。引き続き、活動が祝されるようお祈りください。
- 4 各国の軍人クリスチャンの歩みが支えられ、御名が崇められるようにお祈りください。

今年1年の歩みが神様によって祝された事を感謝します。良いクリスマスと新年をお迎え下さい。

(編集子)

コルネリオ会(JMCF)
(防衛関係キリスト者の会)
コルネリオ会広報室
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 5-33-8 2-33
電子メール: hidekobu-sayuri_enrin1211@y3.dion.ne.jp
郵便振込口座 00130-3-87577 コルネリオ会
コルネリオ会ホームページ:
<http://www.geocities.jp/samuel1/index.html>